

先週の礼拝メッセージ(2021年8月15日) ベン牧師

「以前は、そして今は」 エフェソの信徒への手紙 2:11-13

2章の後半では、救いが「神の民」という視点から語られています。これはとても大切な視点です。

アメリカのキリスト教は、非常に個人主義が濃く現れています。ですから、毎週違った教会の礼拝に出席するというクリスチャンが多くいます。それには、信仰とは、私と神様という、個人的な繋がりの中でのものだから、決まった教会に属さなくても、別にいいではないかという考え方が根底にあるからです。

しかし、聖書を見ると、神様は「神の民」というものをとても大事に見ておられることがわかります。

旧約時代、神の民というと、それはイスラエルでした。彼らのうちに、たった一人でも義人がいれば、その人のゆえにイスラエル全体が祝福され、また、たった一人の罪によって、民全体が裁きを受けるという記事が出てきます。有名なところではヨシュア記7章に記されている、アカンの罪です。

神様は、イスラエルの国全体を、まるで一人の人のように見ておられることがわかります。

現代において、神の民とは、イエス様を信じている人たち、そしてその人たちが集う教会を指しています。神様は、教会を、まるで一人の人のようにご覧になっているのです。だから、イエス様が再臨される時、花婿なるイエス様の前に、花嫁として立つのは「教会」です。

確かに、信仰は、私と神様との個人的なつながりなくしては成り立ちません。とても大切ですし、決して軽く見てはいけません。ですから、これまでに触れてきたように、1章では救いについて「神からの視点」、そして2章では「個人の経験からの視点」が語られてきたのです。しかし、今回の「神の民の視点」も同じように大切なことなのです。

今日のみことばは、私たち異邦人は、本来、神の民ではなく、キリストと関わりなく、約束とは程遠い、希望のない者だったと語っています。なぜなら、本来、神が与えられる希望も約束も、神の民に向けてのものだから



です。ところが、イエス様が十字架にかかってくださり、救いを成し遂げ、弟子たちに全世界に出て行って、あらゆる国の人々に福音を告げ知らせるように、弟子とするようにと命じられ、血筋も、国籍も、性別も、何も関係なく、イエス様を信じる信仰によって救われるという神のご計画によって、なんと、私たちも今は、神の民となったのです。ハレルヤ!

この恵みを知る時、世界中の教会は「キリストの教会」として、教団教派を超えて一つであることがわかります。その中で、日本の千葉の旭市にある旭キリスト教会に、主が私たち一人一人を導いてくださったのです。そして、救ってくださったのです。

皆さん、私が教会を選んだのではないのです。神様のご計画の中で、神様がこの教会に私を導かれたのです。この神の民として救われたという視点は、決して失ってはならないことです。

個人的な神との関係しか見えていない人は、いつも自分の感情が信仰の基盤となってしまいます。浮き沈みの激しい信仰です。恵まれている時には張り切っているけれど、少し落ち込むことがあると、何もかもがダメに見えてしまうのです。

しかし、神の民という視点からは、たとえ私が弱く足らなくても、神は必ず、神の民の一員として、私を導き、祈られ、守られ、成長させてくださるとい、しっかりした基盤の上に立つ信仰者となれるのです。

「キリストが教会を愛し、教会のために御自分をお与えになった・・・のは・・・教会を清めて聖なるものとし、しみやしわやそのたぐいのものは何一つない、聖なる、汚れのない、栄光に輝く教会を御自分の前に立たせるためでした。」(エフェソ5:25~27)

私に欠けがあっても、神の民、教会の交わりの中にとどまり続けるなら、神の民として与えられる祝福はすでに受けているのです。

私たちが教会に属しているということの恵みが、どんなに大きいものかを覚え、今一度、以前は希望もなかったも者が、今は神の民とされ、この教会に導かれていることを、主に感謝しようではありませんか。

